

17日の「新米まつり」でテレビ番組の取材を受ける来場者。匠瑛の舞を食へて「おいしいです」と笑顔



匝りの里から秋をお届け

「新米まつり」で匠瑛の舞に舌鼓

そうさ観光物産センター匝りの里で、9月17、18日の両日、「秋の収穫祭」が行われました。

「新米まつり」と題して行われた、地元ブランド米・匠瑛の舞の無料試食会では、ご飯のお供として同所で販売している生卵やノリ、甘露煮などを提供。訪れた人たちは、「ふくらっていておいしい」と炊き立てご飯に舌鼓を打っていました。17日は、千葉テレビ『おじゃまします！市町村街かどクイズ』の撮影があり、試食をした来場者へのインタビューが行われていました。

また、18日は、アマチュアバンドのライブで会場を盛り上げた他、同所を起点に天神山公園を經由して生尾区まで往復する「ふれあい散歩」も実施され、多くの人でにぎわいました。



老尾神社（匠瑛地区生尾）に立ち寄り、由緒などの説明を受ける「ふれあい散歩」の参加者

“楽しいひとときを”

「共興いきいきサロン」開設

共興コミュニティセンターで10月1日、地域高齢者の交流の場となる「共興いきいきサロン」が開かれ、一人暮らしのお年寄りなど35人が参加しました。

誰もが集まって会話などが楽しめる「オレンジカフェ」（認知症カフェ）を参考に、同地区社会福祉協議会が主催したもので、地区単位での取り組みは市内で初めてのこと。参加者は、同協議会役員や民生委員らとの会話に花を咲かせたり、ビンゴゲームを行ったりしました。

同協議会の伊藤清会長は、「独居の高齢者に楽しいひと時を過ごしてもらえれば。今後は、健康づくりに向けた“いきいき百歳体操”（運動機能の向上や寝たきり予防のための軽運動）なども取り入れたい」と話しました。



お茶を飲みながらの会話に盛り上がる会場。初開催に会場が手狭になるほど多くの人が集まった



車椅子を体験する生徒ら

本市で活動するボランティア団体などによるイベント「ボランティアフェスタ2017」が、10月14日、のさかアリーナで開催されました。

今年は、19の団体や個人に加えて、市内3中学校と匠瑛高校の生徒60人がボランティアとして参加。生徒たちは、団体ごとに設けられたブースの手伝いを行い、来場した人たちへ積極的に団体の活動紹介をしていました。

車椅子体験に参加した八日市場第二中学校の山本剛琉さん（3年）は、「車椅子を押すときは細かな心掛けが大切だと改めて実感しました」と話しました。

“思いやり”の心を体験 ボランティアフェスタを開催

杉木立に響くクラシック

秋晴れの飯高檀林コンサート

飯高寺の講堂を舞台に、10月8日、飯高檀林コンサートが開催されました。

22回目を迎えた今年のコンサートには、市内外から約1,000人が来場。心地良い青空の下、クラリネット、バイオリン、ビオラ、チェロとピアノにより、エルガーやバッハの名曲が奏でられ、来場者は杉木立に響く音色に耳を傾けていました。



静寂に包まれた境内で、多くの来場者がクラシックの音色を堪能

地域の伝統行事

この秋、各地域で行われた、季節の祭礼を紹介します。

松山神社 秋の大祭



下をくぐると御利益があると伝えられている、匠瑳地区・松山神社の神輿。鳥居前には、神輿の出発に合わせて、通過を待つ人たちが長い列を作っていました(=写真)。

〔10月8日〕

六社大神 御神幸祭

野田地区野手の六社大神を早朝に出発した神輿は、一日かけて地区内を渡御。野手浜海岸では、神輿を担いだまま海へ入る「御浜下り」が勇壮に行われました(=写真)。

〔10月8日〕



十二所神社 御神幸祭



栄地区川辺の十二所神社で神事が執り行われた後、神輿が出発。担ぎ手たちは、笛や太鼓の音に合わせて威勢よく地区内を練り歩きました(=写真)。

〔10月8日〕

水神社 秋の祭礼

椿海地区春海の水神社の祭礼では、2日目に仮宮が設けられた当番宿で巫女神楽舞が演じられた後、神輿が神社に戻る「御神体還御」が行われました(=写真)。

〔10月7・8日〕



健康に歩き続けて地球2.4周

野栄ウォーキング、結成20周年

健康と長寿を目指してウォーキング活動続ける野栄ウォーキングサークルが結成20周年を迎え、節目を祝う式典が9月10日、旭市内で行われました。

式典であいさつした同会の勝又康之会長は、「ウォーキングと健康の輪を地域に広めるため、がんばりましょう」と出席者に呼び掛け。続いて、サークル活動に長年参加している会員15人の表彰の他、「結成20周年に思う」と題して代表3人による発表が行われました。

この他、世界遺産アカデミー認定講師の片岡英夫さんを招いての講演、会員による舞踊や楽器演奏などの余興が行われました。

同会によると、月に2回実施している例会はこの日までに約440回に上り、参加した延べ約1万9千人が歩いた距離は地球2.4周分に当たるといふことだ。



長年の活動を会員挙げて祝福(前列は表彰を受けた会員。壇上は勝又会長)

地図製品の提供に協定締結

防災・減災の取り組み推進に



調印後、住宅地図を手にした太田市長(右)と吉川統括部長

市と株式会社ゼンリンは、10月3日、「災害時における地図製品等の供給等に関する協定」を締結しました。

この協定には、同社作製の最新の住宅地図と広域図が防災・減災を目的にあらかじめ市へ貸与されることに加え、市が災害対策本部を設置した際には、市からの要請で速やかに地図製品の供給が受けられることなどが規定されています。

この日市役所で行われた協定締結式で、太田市長は「防災・減災は喫緊の課題。この協定の締結を心強く思う」とあいさつ。出席した同社千葉・茨城エリア統括部の吉川俊也統括部長は「情報の共有と交換を図り、匠瑳市と防災・減災への取り組みを一層進めたい」と話しました。